

区分：報告

掲載日：2020年3月26日

内容：2019年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2019年度外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～もっと子どもによりそう支援のために～

<概要>

●目標：

学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有し、一人一人の子どもによりそう学習支援のあり方を考える。子どもにとってより良い環境を作るための具体的な実践事例や多様な支援者・支援機関等々の連携事例から学ぶ。

●日時：2020年1月23日（木）、30日（木）、2月6日（木）
10:00-12:00 全3回

●場所：パシフィコ横浜 横浜国際協力センター 6階共用会議室
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

●対象：横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方

●参加者：第1回 31名、第2回 27名、第3回 27名（延べ85名）

●講師他：第1回：講師 高柳なな枝氏（地球っ子クラブ2000代表）
井上くみ子氏（多文化子育ての会 Coconico 代表）
芳賀 洋子氏（あそび舎「てんきりん」代表）

第2回：講師 近田由紀子氏（目白大学人間学部児童教育学科 専任講師）

第3回：コーディネーター 唐木澤みどり（YOKE）
事例紹介 塚越恵美さん（友ゆうスペース 代表）
林 錦園さん（なか国際交流ラウンジ 若者支援コーディネーター）
コメンテーター（情報提供）
劉 丹さん（横浜市教育委員会事務局小中学校企画課
外国語指導主事助手）



第1回研修会 「地域からつながる 子どもによりそう支援」

講師：高柳なな枝氏（地球っ子クラブ 2000 代表）
井上くみ子氏（多文化子育ての会 Coconico 代表）
芳賀 洋子氏（あそび舎「てんきりん」代表）
（地球っ子グループ）

さいたま市内 4 か所で日本語教室等を運営する地球っ子グループのコーディネーターの皆さんにお越しいただき、活動を紹介していただきました。
地域だからこそできる、子どもによりそう支援を追究されているグループです。
2 か所の親子日本語教室を運営する「地球っ子クラブ 2000」代表の高柳さんから、子どもによりそう支援として、子どもへの支援から始まり親子支援へ、そして連携の必要性からネットワーク作りに至るまでを具体的な事例を交えながらお話しいただきました。
また、子どもによりそうワークショップとして、未知の外国語を学ぶ体験等を通して「子どもによりそう支援」を考える機会になりました。



*講師のお話



「地球っ子クラブ 2000」では、体験を軸にしたことばの獲得のために「活動の時間」を設けていて、例えば「塩と氷で作るアイスクリーム」づくりなど具体的な体験を通して学ぶ工夫をしているそうです。
写真も交えながら具体的な事例の紹介をしていただきました。

*ベンガル語・モンゴル語体験

ベンガル語のあいうえお表が配られ、受講者は表を見ながら自分の名前をベンガル語で書いてみました。
表を見ればどの文字かはわかりますが、どうやって書けばいいのかわからず、名前を書くだけでもかなり時間がかかってしまいました。
また、モンゴル語で話を聞く体験も、何を言われているのかわからなくて戸惑いました。
子どもたちの不安や苦勞を体験する貴重な機会となりました。



第2回研修会 「学校での子どもによりそう学習支援～地域との連携を通して～」

講師：近田由紀子氏（目白大学人間学部児童教育学科 専任講師）

ご自身の小学校の国際教室での経験を中心に、学校での支援の実際をお話しいただきました。子どもや保護者の事例や、国際教室での指導例、学校内や学校と地域との連携等知りたかった話を聞くことができました。

受講者の皆さんが学習支援の中で困っていること、その解決策についてもグループディスカッションが行われ、全体共有し、各自ヒントを持ち帰りました。



* 学校での支援の実際



困り感のある子どもや保護者の事例を通して、変化を促すためには、国際教室だけでなく、在籍学級での配慮や、外部支援者の働きかけ、関係者の連携による指導実践など、学校内外の連携が重要であるとお話がありました。

国際学級で国語や社会などの教科がどのように教えられているかについて、具体的な単元の実践例が紹介されました。実物や絵、表等の使用や、音読劇をすることを通して理解を促す工夫など、学習支援の活動でも使えるヒントをいただきました。

* グループディスカッションとまとめ

研修冒頭に、グループで受講者各自の困っていることを共有しました。講師から上記の話を聞いた後、その解決策をグループで話し合いました。最後に全体で共有しました。

講師からは、その子に合ったステップで支援することや、「できる」という経験の重要性、子どもが夢を持てることの大切さなど、支援のヒントをいただきました。



第3回研修会 「みんなどうしてる? ~よりそう支援のヒントを共有しよう~」

コーディネーター：唐木澤みどり（YOKE）

横浜市内2つの学習支援教室の事例紹介、教育委員会からの情報提供がありました。質疑応答を行い、参加者で共有しました。後半のグループ活動では、3回の研修会を通じた受講者それぞれの「よりそう支援」の工夫とアイデアを伝え合い、ディスカッションを行いました。

* 横浜市内の学習支援教室の事例紹介：

塚越恵美さん（友ゆうスペース 代表）
林 錦園さん（なか国際交流ラウンジ
若者支援コーディネーター）



林さんは、中学校時代になかラウンジの学習支援教室に通っていた当事者としての思いも含めて話してくれました。

塚越さんは、毎週通ってくる子どもたちへの思いや子どもたちも楽しめる様々な活動、保護者や外部との連携等を紹介してくれました。

* 横浜市における日本語指導が必要な児童生徒への支援について：

劉 丹さん（横浜市教育委員会事務局小中学校企画課外国語指導主事助手）



横浜市の日本語指導が必要な児童生徒の現状や支援の内容などについて、丁寧にわかりやすく説明していただきました。

* グループ活動と全体共有

「よりそう支援のヒントを共有しよう！」

グループディスカッションでは、3回を通して得た「よりそう支援のヒント」を共有しました。他の支援者の実践を聞くことが参考になるという声が聞かれました。



** 参加者の声（各回のアンケートより一部抜粋） **

- 具体的な活動例を多く紹介いただき、大変参考になりました。
- 自分が読めない書けない、聞こえないという立場になってまさに試されたあの瞬間!!背中に汗でした。
- ヒントをたくさんもらいました。少しずつ教室の中で工夫していきます。
- 地域でボランティアをしている者にとって、子どもたちが学校でどうしているのか、いつも気になっていたので、今日のお話は大変参考になりました。
- みなさんの悩みが自分の役に立ちそうです。
- 他団体の方の様々な活動を知ることができて、大変参考になりました。また、行政側の取組について知ることが出来たのも収穫でした。